

教育

◆夏季休業期間中の「学校閉庁日」のお知らせ

教職員の「働き方改革」の一環として、夏季休業中に「学校閉庁日」を設定します。閉庁日は、8月13日～15日の3日間です。期間中、学校には教職員が不在となりますので、ご協力とご理解をお願いします。事故や災害等で緊急を要する場合は、多久市教育委員会・学校教育課へご連絡ください。

◆多久ロータリークラブから図書贈呈

6月13日、市役所で、多久ロータリークラブ(永石喜八会長)から市内義務教育学校3校へ、約10万円分の図書69冊が贈呈されました。この取り組みは、今回で12回目。贈呈された図書は、各校の司書が、児童生徒の興味・関心の高いものから選びました。

永石会長は「児童生徒に図書に親しんでほしい」とあいさつ。田原教育長は「本を読むことでいろんな「心」の体験ができます。人間力を育てる本をいただくことに感謝します。また、地道に続けていただく活動にも改めて感謝します」とお礼の言葉を述べました。



▲永石会長らと田原教育長の記念撮影

問い合わせ 学校教育課 学務指導係 ☎75-2227

今月の論語

知者は水を楽しみ
仁者は山を楽しむ

知者は流れてやまない水(川)を愛し楽しみ、仁者は緑豊かでどっしりとした静かな山を愛し楽しむ。

今月の帰宅放送は、東原庁舎中央校9年 小柳 孝輔さん(南多久町)です

教育長コラム

ちょっといい話



「まなざし」

「勉強せんばいかんやった。今の子にさせて」と、父親になった教え子が言う。指導はくぐり抜ける。教科書は、教室に置きっぱなしで親に聞かれても「先生が取り上げて返さない」と嘘をつかれたものだ。親になって気がつくものらしい。その逞しい父親になった教え子にも伝えたい。勉強は当然ながら、折角の夏休み、子どもに普段より意図して、スキップや様々な体験をさせて欲しい。親族や地域の方々との交流等の機会も作って欲しい。子どもは、そういう体験で「かけがえのない存在なのだ」「命を大切にしよう」と自己肯定感を積み重ねるから、親はもちろん周囲の人々も、まなざしを子どもたちに向けて欲しい。若年自殺者が最も多いのが9月1日だ。

教育長 田原 優子

市民文芸

◆幼き子 児童若者 高齢者
土砂に呑まれし ニュースに咽ぶ
浦野 嘉恵

◆耐へ耐へて 越え来しことの 思い出が
昔話に 変わる夏の夜
本村 則子

◆孫息子 羽球試合に 学友五人
我が家に 宿し 張り切り挑む
福島那智子

◆夢舞台 本田圭佑 その人は
ワールドカップに 導かれし人
野崎 隆幸

◆「妹々」と 我を待たるる 方見舞う
北京大学病院の六階
尾形 節子

◆草刈られ 風の浮力の 弱まりぬ
おおやはな

◆青蜥蜴 忍者の如く 姿消す
倉成 皓二

◆湧き水の 森の匂ひに ラムネ 飲む
富樫 明美

◆老鶯や 山の夕餉の ちと早く
中嶋 清子

◆いつの間に 植田となりし
散歩道
田中あつ子

◆不摂生 ちゃんと 見ている 検査表
高塚ちかこ

◆恍惚の 母と 合せている 歩幅
田代まつこ

◆どの家庭も 大黒柱 お母さん
田中 正春

◆ふる里が 近づいて 来る 訃聞
大谷 和

◆極楽は 此の世にも ある 夏の朝
西山 残月